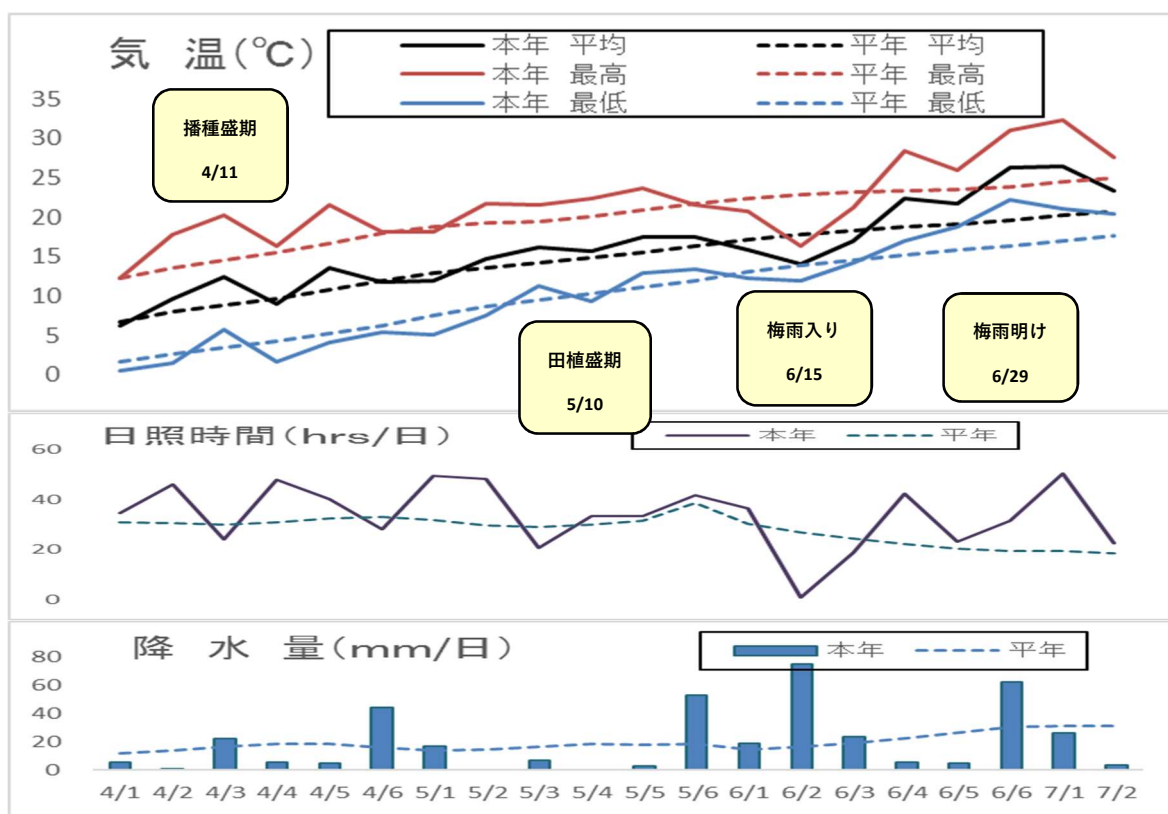


～平坦地帯の「ひとめぼれ」等は、幼穂形成期に達したと思われる～

～適期の追肥及び病害虫防除に努める～

1 令和4年の気象（古川アメダス）



◆7/7 発表 東北地方の1か月予報(7/9～8/8までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みである。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率50%、平年並みの確率40%、低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 07/09～08/08	10 40 50
		1週目 07/09～07/15	10 10 80
		2週目 07/16～07/22	20 50 30
		3～4週目 07/23～08/05	20 40 40
降水量	東北地方	向こう1か月 07/09～08/08	20 40 40
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/09～08/08	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況（7月11日）〔宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査，ほか〕

（1）作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（宮城県古川農業試験場）

- ・草丈は67.6cmで平年比117%，茎数は633本/㎡で平年比106%である。
- ・葉数は，10.5枚で平年より0.3枚多く，**生育ステージは概ね平年並みと推測される。**
- ・葉色（GM値）は36.5で，平年より若干低下している。
- ・**幼穂長は1.27mmで，7月8～10日頃に幼穂形成期に入ったと考えられる。今後，平年並みの気温で推移した場合，出穂期は8月2～4日頃（平年8月2日頃）と予想される。**

移植日	草 丈		茎 数		葉 色		葉 数		幼 穂 長	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	平年差 (枚)	本 年 (mm)	平年差 (mm)
5月10日	67.6	117	633	106	36.5	▲ 3.4	10.5	0.3	1.27	▲ 0.43

（2）【参考】県内品種別（県農業改良普及センター）

- ・草丈66～68cm程度で，平年比109～118%である。
- ・茎数は502～576本/㎡で平年比90～94%となっており，有効茎は確保されているが，**晩期栽培や6月上旬の低温を強く受けた水田では一部に茎数不足が見られる。**
- ・葉色（GM値）は38～41程度で，前回調査時より低下しており，概ね平年並みである。

品種名	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	66.5	109	519	92	38.1	▲ 2.5
ササニシキ	65.9	112	576	94	38.0	▲ 1.0
つや姫	67.7	118	502	90	40.9	▲ 3.1

（3）幼穂の生育状況【参考】

- ・7月8日調査；石巻地方の「つきあかり」（ひとめぼれより2日程度早い）で，幼穂長3～15mm。「ひとめぼれ」で，幼穂長0～7mm。

3 今後の管理

（1）肥培管理

- ・県内平坦地帯における「ひとめぼれ」や「ササニシキ」等の中生品種は，概ね「幼穂形成期」を迎えたと思われる。**晩期栽培や6月上旬の低温の影響で目標茎数が得られなかった場合は，穂数不足が懸念される。茎数や葉色等の推移を確認し，幼穂形成期の追肥が有効な品種では，幼穂形成期の追肥を行い，穂数の確保を図る。**

◆品種ごとの追肥窒素量（kg/10a）は，以下を目安にする。

品種名	ひとめぼれ	ササニシキ	だて正夢	金のいぶき	つや姫・まなむすめ
幼穂形成期	1	－	－	1	2
減数分裂期	1	1～1.5	2	1	－

◎「だて正夢」の場合，有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合は，幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し，穂数（籾数）の確保を図る。

◎「金のいぶき」の葉色は，「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し，幼穂形成期から減数分裂期にかけて，著しく低下する。このため，減数分裂期の葉色値（SPAD502値）が30以下にならないよう，幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg程度施用し，減数分裂期の葉色値を30～32程度に維持する。

(2) 病虫害防除【宮城県病虫害防除所ホームページより】

① いもち病

- ・ 7月上旬の巡回調査によれば、県南部の2地点で、本田における葉いもちの初発が確認され、7月12日付けで「防除情報第5号」を発行した。
- ・ 7月7日以降、下記のように県内の複数地点で感染好適条件及び準好適条件が出現している(●が感染好適条件、○が準好適条件)。
- ・ 県内で広く葉いもちが確認される時期は、平年で7月第3半旬(7/11～15)であることから、水田をよく見回り、発病が見られた場合は速やかに茎葉散布剤等で防除する。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	○	○	●	—	—	○
7/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—
7/9	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	●	—	—	—	●	—	△	●	—
7/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
7/11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

② 斑点米カメムシ対策

- ・ 7月上旬に実施した周辺草地(雑草地、牧草地及び畦畔)での斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は48.7頭で平年(26.6頭)よりも多く、発生地点率も81.3%と平年(70.8%)よりやや高かった(図1)ため、7月12日付けで「防除情報第6号」を発行した。
- ・ 水田周辺の牧草地や雑草地に生息する斑点米カメムシ類の密度を低下させるために、草刈りは幼虫が主体となる7月中旬に行う。
- ・ 水田畦畔の草刈りを出穂期前後に行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、出穂の10日前までに終える。
- ・ 本年は、概ね平年並みの出穂期となる見込みであり、移植の早い早生品種等では7月第6半旬には出穂期に達すると思われる。早めに草刈りを終え、薬剤の散布計画を立てる。

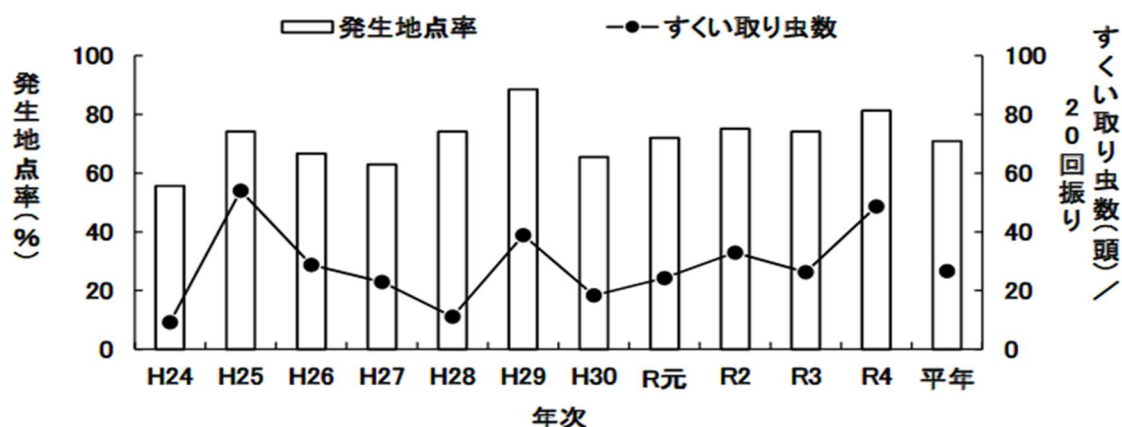


図1 7月上旬の周辺草地(雑草地、牧草地及び畦畔)における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数及び発生地点率の年次推移 (病虫害防除所)